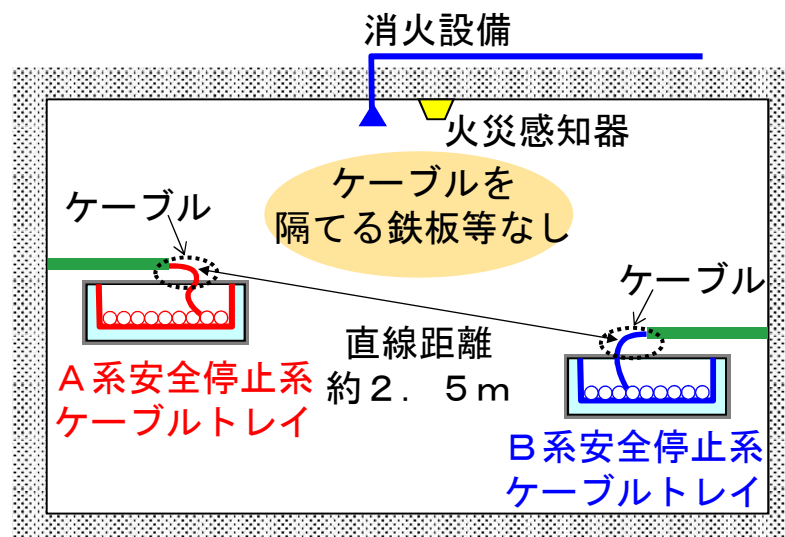


令和2年度（第2四半期）原子力規制検査 指摘事項  
「川内原子力発電所2号機 配線処理室内における不適切な  
ケーブル敷設による火災影響軽減対策の不備」について

2021年3月30日  
九州電力株式会社

## 1. 経緯及び指摘内容

- 原子力発電所では、新規制基準施行前から火災感知器による火災の早期感知、消火体制（専属自衛消防隊の設置）の構築などの火災防護対策を講じていた。新規制基準施行後は、火災感知器の増設、ハロン消火設備などの固定式消火設備の設置等の火災防護対策の強化を実施してきた。
- 新規制基準対応で、A系及びB系の安全停止機能同時喪失の防止を目的として、ケーブルトレイ内に敷設している安全停止に必要なケーブルを火災から防護するために、ケーブルトレイの下面及び側面に耐火材、全周に鉄板を施工した。
- 川内原子力発電所に対する火災防護チーム検査において、2号機配線処理室の系統分離対策が施されたA系及びB系の安全停止系ケーブルトレイ上面の一部に開口部があり、安全系ケーブル（特殊耐熱ビニル被覆を施した難燃ケーブルを使用）が耐火の処置を行わずに入線していることが確認された。
- 耐火処置を行っていないケーブルのうち、A系とB系のケーブルが近接し、ケーブル同士を隔てる鉄板等がない箇所について、火災により安全停止機能を確保できないおそれがあるものとし、検査指摘事項（重要度評価：緑，深刻度評価：S L V）と判定された。

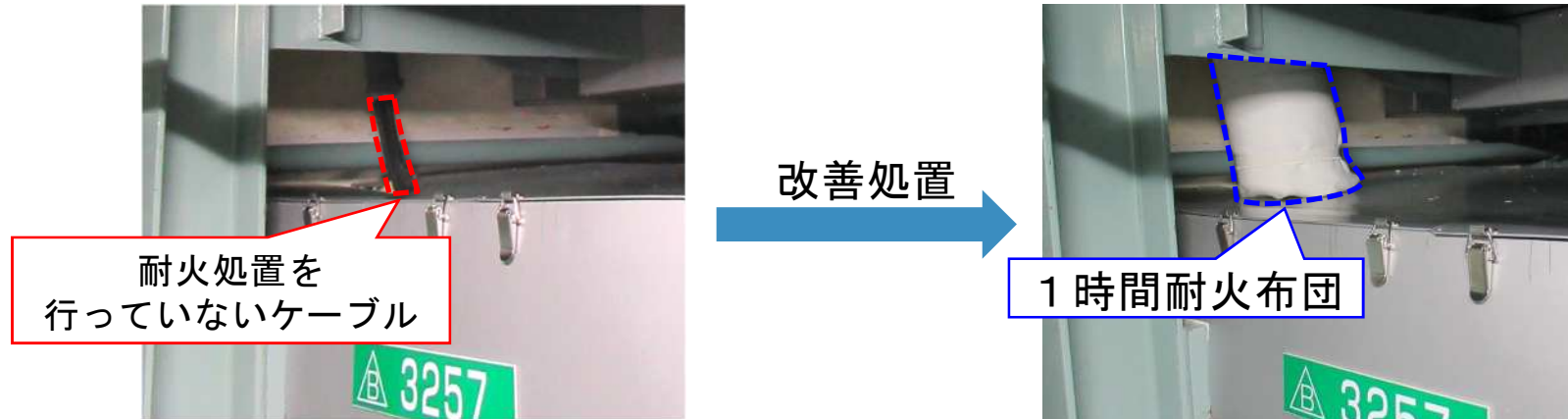


ケーブル配置概要図

## 2. 当社の対応

### ○改善処置

指摘箇所については、ケーブルへの1時間耐火布団による処置を実施した。



### ○水平展開

系統分離対策が施されたケーブルトレイに入線するケーブル全てに対して1時間耐火布団による処置を実施した。

1時間耐火布団による処置については、川内1号機は第25回定検燃料装荷前、2号機は第24回定検燃料装荷前までに完了した。

(1号機：約200箇所、2号機：約100箇所)

### ○再発防止対策

今後のケーブル敷設を伴う工事において、系統分離対策を施したケーブルトレイに入線するケーブルへの耐火処置を確実にできるよう、工事の計画段階で耐火処置の要否を確認し、対策を講じるよう規定文書の記載内容を充実した。